



## 地方議会人の挑戦

—— 議会改革の実績と課題

中邨章 著

ぎょうせい  
2,400円+税



「号泣県議」をはじめとして地方議員のイメージはよくない。しかし、本書を読むと、実は「地方議会人」は少ない議員報酬と脆弱な補佐態勢の中で奮闘していることがよくわかる。自ら議員定数を減らす一方、議会改革の目玉として議会基本条例を制定した議会も多い。「もっと評価すべきだ」と著者はいう。

首長と地方議会の力関係は首長が圧倒的に強い。二元代表制の実態は「一と四分の一制」である。予算編成権や執行部の人事権は首長が握る。議会審議は首長主導で進む。予算は、議会審議前に首長と議会各会派の間で下交渉が済んでいる。議会が不活発なのは、議会人の資質以前に制度の問題なのだ。

そこで著者は大胆な提案をする。地方議会を立法府ではなく行政監視府に位置づけ直せと。議会図書館が倉庫代わりの有様では、議会の立法機能は期待できない。行政の透明性を高めその説明責任を明確にする目付役に、議会は徹するのである。

他にも具体的な「挑戦」案が次々に示される。著者の長年の経験知がそれらに説得力を与えている。

西川伸一・政治経済学部教授  
(著者は名誉教授)

## 失われた時を求めて④

第二篇「花咲く乙女たちのかげにII」

プルースト 著  
高遠弘美 訳

光文社、1,500円+税



プルーストの小説『失われた時を求めて』は、フランス文学の金字塔ともいえるべき作品である。19世紀から20世紀初頭のフランス社会が主人公マルセルの視点から描かれており、恋愛、社交、政治、芸術などが織りなす豊かな世界がそこにはある。10巻にもわたる大著なのに日本でも既に5つの翻訳が存在する。その中でも僕が高遠訳を推したいのは、何といたって言葉に色気があるからである。お菓子のマドレーヌを形容するのに、他の訳者はみな「ふくら」と訳すのに、高遠訳だけは「ぼったり」とある。なんと艶めかしいではないか。本巻「花咲く乙女たちのかげに 2」では、主人公の恋人アルベルチーナが登場する、ノルマンディーの浜辺の場面は特に印象的である。彼女は捉えどころのない魅力の持ち主であるが、この巻でも初々しく清楚であったり、それでいて肉感的であったりする。この微妙さをプルーストは見事に描いているのだが、翻訳は独特な色気で迫っている。高遠プルーストの世界を是非堪能していただきたい。

岩野卓司・法学部教授  
(著者は商学部教授)



明大スポーツ新聞部

ズームアップ

第551回

文・写真／○○○○(○○)



○○○○○○部 ○○ ○○